

ウエ〜ブレット

第58号

令和5年・秋
(2023年)

あいめっせ男女共同参画週間講演会
上野千鶴子さん ……2~3

講演会に参加した
中高生にINTERVIEW ……4

あいめっせ主催講座のご紹介
中高生対象 ジェンダー入門 ……5

姫路市立山陽中学校インタビュー
ジェンダーレス制服からはじまる
多様性へのまなざし ……6~7

姫路市男女共同参画プラン2027
簡単まとめ ……8



あなた方を待っているのは どういう社会か？



～もうお父さん、お母さんのようには生きられない～

2023年6月24日、あいめっせホールにて社会学者・東京大学名誉教授の上野千鶴子さんを講師にお招きし、男女共同参画週間講演会が催されました。

女性学・ジェンダー研究の第一人者である上野さんは、2011年4月から認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長を務め、女性の権利を守る活動や女性支援に尽力されています。

講演会では、日本の男女差別や不平等の現状と、これから私たちがどう変わるべきなのかをお話いただきました。



上野 千鶴子 (うえの ちづこ) さん プロフィール

富山県出身。京都大学大学院社会学博士課程修了。社会学者。東京大学名誉教授。認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。専門は女性学、ジェンダー研究。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。『おひとりさまの老後』『ケアの社会学』『女ごらい ニッポンのミソジニー』など著書多数。

01 はじめに

私は『女の子はどう生きるか』という本を書きました。なぜ女の子向けなのか。それは男の子向けの本はとっくにがあるからです。

教育書には優れたものがいくつもあります。たとえば戦前の大ベストセラー『君たちはどう生きるか』という本は、男の子がいかにかに生きるかという内容です。また、私の父が若い頃『エミール』という本に感激して「抱いて寝た」というので、どんなものかと思って読んでみると、最後にショックを受けました。なぜなら、たくさん良いことが書かれてありますが「今まで言ったことは女の子には当てはまらない」と書いてあるのです。さらに「女子はすべからず男を支えるように育てなさい」という文章に「なんやこれは」と愕然としました。

「女の子はどう生きるか」
上野千鶴子著
(岩波ジュニア新書)



「エミール」
ルソー著、今野一雄訳
(岩波文庫)



「君たちはどう生きるか」
吉野源三郎著
(岩波文庫)



02 女子の大学進学率

私は2019年の東京大学入学式の祝辞で注目を浴びて、10代への知名度が上がりました。東京大学がなぜ私を呼んだかという、入学者の女性比率が「2割の壁」を超えられないからです。

今でも男女で大学進学率に違いがあります。女子の受験希望者が少ないので、女子入学者が増えないのです。では世界を見てみると、ほとんどの国の進学率は女子の方が上で、日本だけが逆。なぜでしょう。

18歳の時に大学にチャレンジしようという女子が少ない原因は、生まれた時から始まっています。「なんや、娘か」と祖父母が言う。進路指導の先生が「お前は女やから浪人せん方がいいやろ」と言う。校長は男、ヒラは女。「そうか、男の後をついていくのが女なのだ」と

いうことを日々目にして子どもたちが育っています。

子どもの誰ももが持っている、育ちたい、達成したいという気持ちに水をかけられ、足を引っ張られる。これが18年間ずっと続くと、18歳になったときに「よし、ひと頑張りしてチャレンジしてみようか」という気持ちがなくなってしまうことが、研究から分かっています。

こちらからも閲覧できます

2019年東京大学入学式の祝辞は
東京大学HPで公開されています。

上野千鶴子 東大 祝辞 検索



03 20230とジェンダーギャップ指数

今、日本政府はあらゆる分野に女性を増やすよう呼びかけています。20230とは、2020年までにあらゆる分野の指導的地位に占める女性の割合を30%に増やそうという数値目標です。

最初に聞いた時の私の感想は「なんで、2020“50”やないねん」でした。50%が当たり前であるべきで、30%を目標にしている場合ではありませんが、それすら達成できていません。目標達成に罰則規定がないため強制力がなく、実効性もありません。私たちが男女平等先進国だと羨ましく見ている国で、実効力のあるクオータ制の導入抜きにして男女平等を達成した国はありません。

日本のジェンダーギャップ指数は、2023年は148か国中125位。日本も少しずつ良くなっているけれど、諸外国の変化が速いので取り残されたということがこの順位から分かります。

04 女性の働き方

世界の他の国と比べて、日本の正社員の男女における賃金格差は大きいです。女性がお金を稼げるポストにつかないからです。日本の女性管理職は他国の2分の1から3分の1です。

ただし、日本の女性は仕事を辞めなくなりました。以前は出産育児で辞めてまた戻るといって、いわゆるM字型でした。今は該当者の女性の8割が堂々と育児休暇の権利を行使します。かたや男性の育児休暇の取得率はいまだ微々たる変化です。

正規の人は4人に1人しか辞めませんが、非正規の人は6割の人が辞めさせられます。辞めさせられるといっても解雇されるわけで

05 昭和モデルとノイズ

もはや日本は、昭和のモデルでは立ち行かなくなりました。

税制、社会制度、103万円の壁、130万円の壁など、様々な制度により今まで女性の就労は“禁止”されていました。働いても低賃金で貧乏、その結果低年金で貧乏、死ぬまで貧乏。では誰が得をしているのでしょうか。それは女性を低賃金で買いたたける経営者です。

企業は最近になってようやく女性を使ってみる気になりました。採用してみたら思ったよりも使えたからです。課長以上の管理職に女性が多く、35歳時の男女の賃金格差が低い企業ほど儲かるということが研究で分かってきました。経営者向けに女性就労を説得する根拠は、「女性を使うと儲かります」になりました。

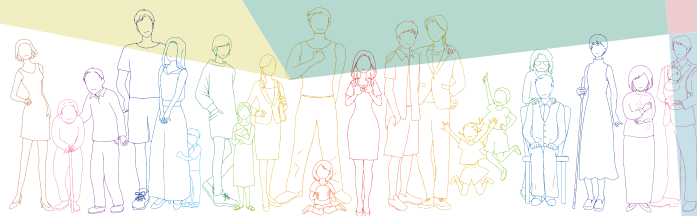
多様性の抑制をしていたら日本はジリ貧になりますし、このまま

06 最後に

日本の社会にはセクハラやDVや賃金格差など様々な差別があふれています。皆さんにはそれらの被害者にも加害者にもなってほしくないのは当然のこと、傍観者にもならないでほしい。

被害者になって一人で戦うのは大変です。孤立しながら戦う被害者の声は、残念ながら一人だけでは届かない可能性があります。だからこそ、被害者が勇気を持って声を上げた時、傍観者になってほしくないのです。沈黙は追認です。黙っているだけで、加害者に同調していることになります。

被害者の声が届きにくい社会を変えてきたのは「ちょっと待った、それはないだろう」と声を上げた女性たちや男性たちです。だから



Q. クオータ制とは

格差是正のためにマイノリティに割り当てを行うポジティブ・アクションの手法の一つ。



はなく、契約の満了や雇い止めという形をとっています。妊娠を理由に解雇するとマタニティハラスメントになるためです。非正規の人たちには妊娠出産の権利がないといってもいいほど、待遇に格差があるのです。

日本の女性の働き方は世界的に見て大きな変化があり、今は10人に7人は働いています。しかし、このうち53%が非正規社員です。非正規社員では長く働くことが難しく、管理職につくことができません。そのうえ、同じように働いても賃金格差が大きいということになります。だから日本の女性の地位格差が縮まらないのです。

Q. ダイバーシティとは

直訳で多様性を意味する言葉。
ここでは、国籍、性別、年齢などにこだわらず様々な人材を登用し、多様な働き方を受容していくという考え方を指します。

変化しなければ現状維持も難しくなります。ここにきてようやく経営者も動き出しました。

日本はものづくり社会ではなく情報社会になりました。ダイバーシティは流行り文句ですが、女性もちゃんと使えないのに外国人を使うのは難しいです。なぜなら、日本はノイズを避けたがるからです。ノイズとは異文化との摩擦です。ノイズがないところにイノベーションは生まれません。つまり、女性や外国人と働くことでノイズ=新しい価値が生まれます。だから多様性が必要であり、多様性への第一歩として女性を増やす必要があります。

皆さんも、傍観者にならず「それはないだろう」と声を上げてほしいのです。

最後に「こんな世の中にして、ふがない先輩で、ごめんなさい」と言わなければなりません。でも「こんな世の中を変えられますか」と聞かれたら「はい、変えられます」と答えます。今までに変えてきた実績があるからです。家庭科男女共修、男女混合名簿、お茶くみ、世の中は少しずつ変わってきています。

政治はもしかしたら最後が変わるかもしれません。それでも、女の子たちにも世の中を変えられると伝えたい。そして男の子たちも一緒に変わってほしいです。

講演会に参加した 中高生にINTERVIEW

上野千鶴子さんの講演会を聞いて、「あなた方」の当事者世代である10代の若者たちはどう感じたのでしょうか？講演を聞き終えた中高生5人に、参加したきっかけや印象に残ったことなどを聞いてみました。



INTERVIEW 01

講演会に参加したきっかけを教えてください



兵庫県立
姫路東高等学校2年
梶本 千紗姫さん

高校の先生に誘われたのがきっかけです。上野さんのことは小学生のときに「女の子はどう生きるか」という本を読んで知り、興味を持ちました。



学校法人淳心学院
淳心学院中・高等学校
中学校1年
安永 隼翔さん

学校の先生に勧められたこと、**講演のタイトルが気になった**ので参加しました。



兵庫県立
姫路東高等学校3年
長井 小暖さん

私は中学生の頃LGBTQの方の生きづらさを知る機会があり、本や記事を検索していました。そこから身近な問題としてジェンダーにも興味を持ちました。



兵庫県立
姫路東高等学校2年
前田 峻聖さん

僕は高校生になって深く学ぶことの面白さや問いを立てることの大事さに気づき、**上野さんの話を聞いて問いを立てるヒントをもらいたい**と思いました。



姫路女学院
中学校・高等学校
高校1年
上田 光璃さん

題名にすごくインパクトを受けたのと、親にも勧められてぜひ参加したいと思いました。

INTERVIEW 02

講演を聞いてみて、気づいたこと、印象に残ったことを教えてください

梶本さん

上野さんのお話をお聞きして、政治・経済・教育・家庭といういろいろな分野に思考をめぐらせることができました。それくらい、**この問題が多岐にわたっていると気づきました。**

安永さん

僕は世の中の男女格差は少なくなっているのかなと思っていました。でも、男女の所得格差や、女子だからこうなさいという性別による決めつけなど、**現実にはたくさんの差別が残っていると知り、とても驚きました。**

長井さん

私は逆に、男女平等が表面上のものであると知っていました。でも、なぜそれが起きているのかわかりませんでした。なぜ日本企業の女性管理職比率が諸外国に比べて低いのか、なぜ東大の女子学生比率が2割と低いままなのか、背景を知ることができました。

前田さん

上野さんの「**社会にノイズを立てよ**」という言葉が**印象に残りました**。僕たちがノイズ発生装置にもなりたいし、ノイズを拾って情報に育てていく側にもなりたいと思いました。

上田さん

難しい場面もありましたが、冗談も交えながらお話されたので楽しく聞けました。中でも30代男性の**年収と婚姻率はきれいに比例している**、相関関係がすごいと思いました。

INTERVIEW 03

男女平等やジェンダーに対する考え方について、親世代とのギャップを感じることはありますか？

前田さん

男2人の兄弟なので、上野さんが話していた「男女による教育投資の差」を感じることもなく育ちました。

安永さん

僕は妹がいますが、同じように親からの男女による差は感じません。

梶本さん

母は専業主婦です。しかし社会は変わっているので、私は母と同じ道はたどらないと思いますし、**母もそれを応援してくれると思います**。でも、道を決めつけるのも良くないと思います。変化する社会に合わせて、自分で選択ができることが理想です。

長井さん

私は3世代で暮らしています。**40代の母とはあまりギャップを感じませんが、70代の祖母とは違いを感じます**。たとえば、私が男子が主役のアニメを見ていたら「男の子みたい」と言われたり…。

INTERVIEW 04

今日の講演を聞いて、自分はこう行動したいと思ったことがあれば教えてください

長井さん

上野さんにノイズを起そうと言われたので、まずは身近なところから始めます。家では祖母を傷つけないように伝えていこうと思います。また、**今日知ったことをSNSで発信もしていきたいです**。

梶本さん

これまで日本で男女差別を解消するための法律はたくさん整備されてきたけれど、どれも努力義務で実体がないと知りました。今後さらに法整備が進んでも、私はそれに甘んじず、「**権利の上に眠る者**」にならないようにしたいです。

上田さん

SDGsのジェンダー平等は、私たちが生きている間に達成できないと言われたけれど、とても頑張ったら達成できるかもしれない。具体的には思いつかないけれど、少しでも**ジェンダー平等が実現できるような何かを考えてみたい**です。

中高生
対象

ジェンダー入門

知ればみんなが生きやすくなるって本当!?



令和5年3月に策定した「姫路市男女共同参画プラン2027」では、基本目標の一つとして「次世代への継承」を掲げています。そこでジェンダーやフェミニズムについて教鞭をとる教員の方を講師にお招きし、「ジェンダー入門 知ればみんなが生きやすくなるって本当!？」と題して、中高生を対象としたセミナーを開催しました。

第1回
7月22日(土)



「男は強く／女はやさしく」でいいのかな？

かただ そん あさひ
講師 片田 孫 朝日さん (灘中学校・高等学校教員)

片田さんは自身の家事・育児の体験談を交えながら、ジェンダー問題について、職場環境や法制度を整備することで男性も女性も生きやすい社会になると話されました。また、自分も相手も大事にするアサーティブ・コミュニケーションについても教えてくださいました。



兵庫県立
姫路東高等学校
重田 朝登さん

上野千鶴子さんの講演会に参加して、ジェンダーに興味を持ったので参加しました。日本の男性の育児参加率は低く、それを改善していくには、男性が育児について学んだり、男性の育児がもっと受け入れられる社会になることが大事だと思いました。

高校の総合探究の時間で、ジェンダーについて考えよう、調べようと班で決めたので参加しました。講座を受けて、子育てや日常生活、外出先など、自分たちの身近なところに様々なジェンダーギャップがあることが分かりました。



兵庫県立
赤穂高等学校
四宮 空さん

Q
アサーティブ・コミュニケーションとは
お互いを尊重しながら
意見を交わすこと。

参加者の声
Voice



兵庫県立
赤穂高等学校
北垣 丈太郎さん

僕も同じ班で、言い出しっぺです。ジェンダーが社会問題になり、様々なところで耳にするので調べてみたいと思いました。これまで、男子は仕事、女子は家事という概念に囚われていたけれど、男女関係なく仕事も家事もできることが分かりました。また、男子も友達や家族に相談していいのだと知ることができたので、どんどん相談していきたいです。

僕も同じで、ジェンダーについて深く知りたいと思い参加しました。今の日本では男の人はこう、女の人はこうという概念が強いけれど、講座を受けてその概念を覆せることが分かってよかったです。



兵庫県立
赤穂高等学校
小谷 怜雅さん

第2回
7月29日(土)

前回みんなが疑問に思ったことをもっと深掘りしてみよう!

参加者の声
Voice



兵庫県立
姫路東高等学校
梶本 千紗姫さん

私はこれまで、ジェンダー平等を目指すため一番に解決すべき問題は人の内面、考え方だと思っていました。しかし、第1回の片田さんが「社会構造に問題がある」、第2回の田中さんは「環境や社会が私にそうさせた」とおっしゃっていて、その考え方に衝撃を受けました。人に思いやりを持つようよ!という呼びかけの前に正しい知識をシェアするという方法があることは勉強になりました。これまで、フェミニズムは学問として学んでいる一部の人のみで行われているという認識でしたが、今回の講座で楽しんで学ぶことができると分かりました。幸いにも今通っている高校にはジェンダーを学ぶ場があるので、学び方を提案できたらいいなと感じました。



たなか
講師 田中 めぐみさん
(共学・女子校・男子校 教員)

社会科教員である田中さんは「自分が何を感じたか」を重要視して生徒とともに授業を構築されてきました。学んで身につけてしまった「〇〇らしさ」は学び落としてほしい、と正しい知識の習得が重要であると教えてくださいました。



ジェンダーレス制服から はじまる



現在、LGBTQに代表される様々なマイノリティに配慮しようという動きが社会的に広がっています。このような社会の動きに合わせて、性別を問わず共通のアイテムを選択できるジェンダーレス制服を取り入れる学校が増えています。

姫路市立山陽中学校の制服を手がけた学生服メーカーでは、多様な性のあり方を認め合う学校環境の実現に向けて、制服づくりをはじめとする様々な取り組みが行われています。その中の一つとしてジェンダーレス制服の展開があり、性別でアイテムを絞らず選択の幅を広げることや男女の性差を感じさせないデザインにすること、多様性に対応しつつ学校の雰囲気や生徒の気持ちに寄り添うことで、生徒の「自分らしさ」を尊重することを目指しています。

今回は姫路市内で最初にジェンダーレス制服を導入した姫路市立山陽中学校の教職員や生徒会の皆さんに、新制服採用の経緯や感想を伺いました。



インタビュー

教頭 中村 寛治さん



ジェンダーレス制服を導入するに至った経緯を教えてください。

01 ある女子生徒の小さな疑問から始まった

より多様性を重視する社会の流れに乗る必要があるという考えから、2018年の令和が幕を開けるタイミングで学校制服のデザインについて議論が起きました。その中で、1人の女子生徒から「私たちはなぜボンじゃなくてスカートと決まっているのですか?」と質問されたことがきっかけとなり「時代、環境、男女のあり方の変化への対応」というコンセプトのもと、マイノリティの生徒への配慮だけではなく学校生活での機能性や安全性を考慮する

と、スラックスが適しているのではないかと感じました。女子の旧制服はセーラー服だったのですが、体温調節がしづらい部分がありましてし、掃除の際にスカートを脱いでジャージを着る生徒がいることや、学校外でもパンツスタイルが普及していることもあって、学校制服でもスラックスを取り入れようと考えました。こうして“スラックスを標準としてスカートも選べる”という制服に改革していくことを目指しました。

02 生徒の声を大事にした結果

2019年には検討委員会を立ち上げ、生徒や保護者、将来山陽中学校で過ごすことになる小学生を対象にアンケートを取りました。その結果、ブレザー型が好ましいとの回答は62%、スーツ型が好ましいとの回答は20%となりました。ブレザー型とスーツ型合わせると8割以上の方が制服の改革を希望されたことになりました。改革の理由としては動きやすさが多く挙げられました。

保護者や生徒たちの意見を参考に利便性や機能性を重視し、ブレザーとスラックスを男女共通の標準制服に採用しました。また、希望者は性別を問わずスカートを着用できます。本校の制服は、活動のしやすさを重視しながら「男女の分け隔てのない」「性差のない」服装を目指し、その結果、時代に合ったジェンダーレス制服が採用されることになったといえます。

03 子どもたちと引き継ぐ未来

子どもたちの未来のために学校を変えていくという考えを理解し、子どもたちと一緒に将来に引き継いでいきたいものの定着を図るため、この制服を採用した9月28日を「制服の日」に設定しました。制服の日にはLGBTQの当事者をお招きして様々な視点から

多様性を考える講演会を毎年開催しています。生徒たちにはマイノリティについて理解するとともに、自分らしく、人間らしく生きることについても考えてもらいたいと思っています。



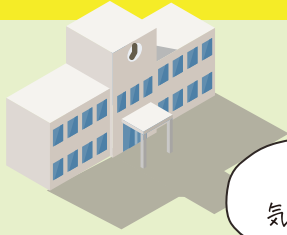
性的マイノリティへの配慮だけではなく利便性を重視した結果、男女共通の標準制服を採用されたのですね。

これから学校はどのように変わっていくと考えておられますか?

時代や環境、男女のあり方は変化してきています。これまではあまり変化のなかった学校ですが、姫路市全体でも未来を担う子どもたちのために、社会の変化に準じて校則を見直し、改善を図っ

ていこうという動きがあります。生徒たちは思春期を迎え、多感な時期です。皆が安全で安心できる学校生活を送っていけることを切に願っています。

多様性へのまなざし



3年生 鳥田 美羽さん

とても楽しんで入っています。

セーラー服を着てみたいとも思っていたのですが、自転車通学なので迷わずスラックスにしました。とても楽で気に入っています。
ただ、男女ともスカートを選択できますが、男子はスカートを着用しにくい状況だと感じます。



ジェンダーレス制服って、実際どうなの？

性差を意識することなく生活できているので安心しています。

入学前は、「スラックスを穿いている人」「スカートを穿いている人」と意識してしまうかもしれない…と心配でしたが、実際は取り立てて意識することなく生活できているので安心していきます。
学ランやセーラー服のように男女で大きな差がある制服だと、LGBTQの方は大きな壁を感じてしまうのではないかと思います。



3年生 伊藤 紗那さん

分け隔てなく話しやすいので、この制服になった意味があると実感しています。

ジェンダーレス制服が有名で、インターネットなどで取り上げられたりしますが、入学してからずっとこの制服なので、それが当たり前になっています。

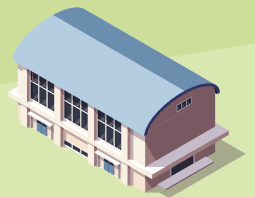
男女差がないので分け隔てなく話しやすいため、この制服になった意味があると実感しています。ただ、他校の学ランやセーラー服に憧れている人もいます。



3年生 大島 拓さん

憧れてくれている他校の生徒もいます。

制服は高いので、スカートにするかスラックスにするか悩みましたが、どちらも試着してみても動きやすく快適なスラックスにしました。スラックスが標準でスカートも選べるので、憧れてくれている他校の生徒もいます。
セーラー服やスカートへの憧れもありますが、高校でもどちらか選べるなら、やっぱり着てみて決めるのが一番だと思います。



3年生 石掛 希さん

取材を終えて

2023年6月取材時、女子生徒の6割程度はスカートを着用しています。制服は体型や好みによって調整可能で、ブレザーはボタンを付け替えることで前合わせが選べるようになっており、スラックスはゴムでゆとりをもたせています。また、山陽中学校のイメージカラーである緑のエンブレムは美術部がデザインするなど細部までこだわりが詰まっています。

今回の取材に応じたくださった生徒会の皆さんはジェンダーレス制服が導入されてから入学していますが、それぞれが選んだ制服をととても気に入っているようでした。



姫路市男女共同参画プラン2027

姫路市は、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とした

「姫路市男女共同参画プラン2027」を令和5年3月に策定しました。

3つの基本理念「**男女の人権が尊重される社会**」「**男女が対等に参画し、責任を担う社会**」

「**あらゆる状況・立場の人に多様な選択が保障される社会**」を達成するため、

4つの基本目標と推進体制の整備を柱に、男女共同参画社会の実現を目指します。



↑姫路市HPにて
閲覧できます

基本目標

ワーク・ライフ・
バランスの推進



次世代への継承



女性の活躍
の推進



多様性を尊重する
社会づくり

重点的に推進すべき課題

「姫路市男女共同参画プラン2027」では、下記5つを重点的に推進すべき課題ととらえ、様々な施策に取り組みます。



あらゆる
分野への
女性の参画
拡大

家庭・地域活動
への男性参画を
可能にする
働き方促進

生活の
セーフティネット
の充実

多様な
生き方を尊重する
意識の
世代間共有

男女共同参画の
視点に立った
教育・学習の
推進



なかでも「男だからこうするべき、女だからこうあるべき」という、性別で固定的に役割を決めてしまう意識に、一人ひとりが気づき見直していくことが特に重要です。

そのために、中高生・大学生に向けた講座・講演会の開催やパンフレット等の作成、市内企業を対象としたワークショップの開催などを行っていきます。

男女共同参画社会の実現は、行政の取り組みだけでは成し遂げられません。市民の皆さんや企業、地域などが一体となって、男女共同参画への理解を深めていくことが大切です。

プランの詳細はこちら → [姫路市 男女共同参画プラン](#) 🔍

編集後記

●上野千鶴子さんの講演会が開かれる3日前に世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数が発表され、「日本後退125位」との報道が。しかし、講演で「日本は変えられます。ちょっとでも変えてきた実績があるから」という上野さんの言葉や中高生の真剣な声を聞き、現実に絶望するのではなく、未来へ向けて変化させていく一人でありたいと思いました。(石崎)

●私も今の若い世代に「こんな世の中でごめんなさい、ふがいない先輩でごめんなさい」と感じ

ます。でも考えてみれば、私が社会に出た数年の中でも、ジェンダー平等という観点で変化した部分は両手では数えきれないほどありました。#わきまえない女としてノイズを大きく立ててせいぜい生きていきたいです。(鈴口)

●今回取材をして、学校側が時代の潮流に沿った学校教育を強く意識していることがわかりました。社会が変化している中で、学校教育だけが取り残されてはいけないという考えを持って教育されていることを、より多くの人に知っていただきたいと感じました。(小林)

ウエーブレット編集委員

愛称

ウエーブレット

「小波」の意味です。小さな波が意識改革という波紋を拡げ、やがては大きな波となり行動へとつながっていく願いを込めています。

聞かせてください

あなたの声!

第58号、ご覧になっていかがでしたか?
ご意見・ご感想などあなたからの
発信をお待ちしています。



ウエーブレットはここにあります

市政情報センター、各地域事務所、各支所・出張所・サービスセンター、駅前市役所、市民会館、各市民センター、各公民館、城内図書館、姫路文学館、生涯学習大学校、好古学園大学校、キャスパホール、各総合センター、すこやかセンター、市民活動・ボランティアサポートセンター、青少年センター、あいめっせ など